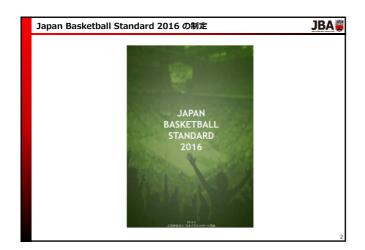


世界に通用する選手を育てる ための 育成方法論を示す資料



JBA理念・スローガン・ビジョン

JBA理念
「バスケットボールで日本を元気にします」

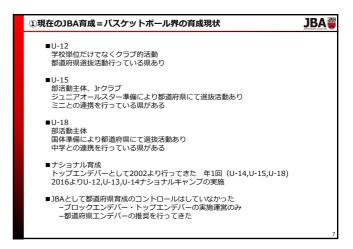
JBAスローガン
「Break the Border 〜超えて未来へ〜」

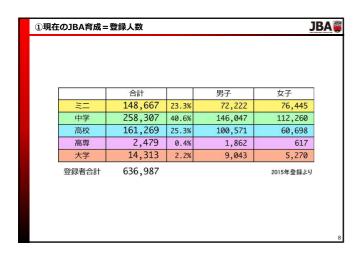
JBAビジョン
「強く」「広く」「社会のために」

強化育成の目標	JBA
ミッション	
<u>1. 日本代表強化</u>	世界で勝ち抜くためのJapan'sWayの確立
	国外強化システムの構築・実践
	3×3日本代表強化システムの確立
2. 育成環境の整備充実	年代別指導方針の確立・徹底
	タレント発掘/育成システムの構築
	エリート選手養成制度の確立
3. 競技環境/競技会の整備充実	日本代表の戦略的マッチメイクの企画/立案
	ユース日本代表の国際試合経験値の蓄積
	アジア/オセアニア圏における国際試合増
	4

ユース育成の目標	JBA 🐞
■5年後(2022年)	
ナショナルキャンプを経験した選手が18歳~20歳	
海外挑戦している選手が5~10名	
代表チームにも参加できる若い世代の選手が数名	
■10年後(2027年)	
ビッグマンも世界に通用する選手が出てくる(育成の成果として)	
代表チームはアンダーカテゴリーからの経験者とそれを打破しようと 選手の競争が激しくなっている	する
■20年後(2037年)	
海外でも日本人プロ選手が数名活躍している	
弱小国から強豪国への変貌を遂げた国としてその方法論に注目される	
	5









②育成の課題=世界に通用する選手を育成するために 年代別指導方針 JBA

■ LTADに基づき発育発達を考慮した指導内容を作成

■ ドイツ協会参考としたものを提示

■ 習熟度別カリキュラム作成

■ バスケットボールの技術・基本戦術DVD作成済

②育成の課題=世界に通用する選手を育成するために 指導者教育

JBA 🖀

- ■LTAD理論・育成世代コーチングの理解
- ■習熟度別カリキュラムの理解
- ■勝利至上主義の脱却「育てる」意識を持った指導
- ■育成指導者の価値向上

②育成の課題=世界に通用する選手を育成するために 発掘システム JBA質

■現状

県→ブロックエンデバー→ナショナルキャンプ

■今後

県育成センター
ブロック育成センター(ブロックキャンブトライアウト)
ナショナルキャンプトライアウト
ナショナル育成センター
将来的にJBAアカデミー設立検討

②育成の課題=世界に通用する選手を育成するために Bリーグユースの意義 **JBA**

Bリーグユースは世界基準の選手を作る方法論として重要 将来の日本代表選手を育てる意識を持ってユースチームを運営

■良い指導者がいる

育成に必要なことを教えられる指導者=勉強する環境、意欲ある指導者、時間が取れる 育成に必要な「個の強化」ができる

世界基準に到達するためのレベルを知っている、経験がある指導者を育てている プロ指導者であるが故、専門性が高い

■優れた選手が集まりやすい

優れた指導者、良い施設、良い練習環境、目標とすべきモデル(選手・場所)がある

※ スクールは普及の一つの方法であるが、強化の最適な道ではない。 地域貢献という普及の観点ではBリーグクラブが取り組むべき重要案件。 需要も多くあり、必要性は高まってきている。

②育成の課題=世界に通用する選手を育成するために 大会見直しの目的

JBA 🎬

大会の見直しの目的

- ■未来を変えるために
- ■今日とは違う望む環境を作るために
- ■大会を設置することで何を起こることを望むか
- ■起こって欲しい状況を起こすために大会のあり方を考える
- ■育成のあるべき環境にするために大会を見直し、提案する

15

- ■天井効果の排除・・・飛び級制度
- ■試合課題を練習で解決・・・Practice-Game-Practice (P-G-P)
- ■日常に世界基準を・・・スタンダード 質を高める 指導者意識変革
- ■発達に応じた指導・・・_{指導内容 試合数}
 _{大会形式(リーグ・トーナメント)}

④育成の課題=試合形式・大会形式・スケジュール

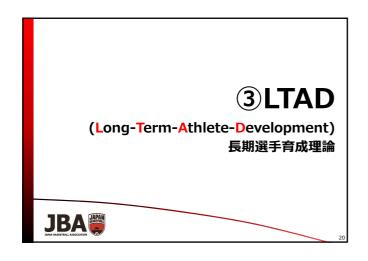
JBA 🎏

- ■勝利至上主義を助長しない大会・ルールの工夫
- ■1日の試合数指針
- ■年間の適正試合数指針
- ■公式戦の試合経験確保
- ■所属チームの大会設置
- ■育成センター実施のためのスケジュール管理

17

②育成の課題	=ルール(案)			JBA 🕊
ルール(窓)				
	U-10	U-12	U-15	y-is
リング	260	305	305	305
ボール	男女5号	男女6号	男子7号・女子6号	男子7号・女子6号
粉骨		6 5) ×4Q	853×4Q	10 3) ×4Q
コート	3×3	22-28m×12-15m	28m×15m	28m×15m
				1

②育成の課題=他国・他競技の育成方法調査	JBA 👺
■他国の育成方法の良い点を日本に取り入れる	
■他競技育成方法の良い点を取り入れる	
	19





③長期選手育成理論=LTADとは何か ■長期のスポーツ選手開発(LTAD)モデルは人の成長と発達の原則に基づく。 ■発達に即した最適なトレーニング、競技、回復過程 ■レクリエーションと競争の適切な機会 ■選手を中心に、スポーツ科学とスポンサーのサポートを受け、コーチをコントロール管理する

③長期選手育成理論=LTADの段階 ■ FUNdamental (楽しみながら基礎を学ぶ) 段階 ■ 鍛え方を学ぶ段階 ■ 鍛え方をトレーニングする段階 ■ 競技のためにトレーニングする段階 ■ 勝利のためにトレーニングする段階 ■ 引退/生涯活動への移行

③長期選手育成理論=一般的なスポーツシステムの課題(1)

JBA =

- ■若いアスリートへのコントロールのない指導と過剰な競争
- ■若い世代で競争が多く、練習が少ない
- ■大人の競技スケジュールが若いアスリートのスケジュールと同じ
- ■大人のトレーニングプログラムと若いアスリートのプログラムが同じ
- ■男子のトレーニングプログラムと女子のトレーニングプログラムが同じ
- ■初心者、中級者のトレーニングの焦点が過程(最適トレーニング)より勝利 に絞られている
- ■11歳から16歳までのトレーニングと競技は生物学的年齢と成熟年齢に支配

③長期育成理論=一般的なスポーツシステムの課題(2)

JBA 🛎

- ■博識高いほとんどのコーチはエリートレベルをコーチしているが、 FUNdamentalから始まる段階の選手を博識高いコーチが担当すべき
- ■コーチ教育において成長、成熟に関する部分をレクチャーするのは一部分に すぎない
- ■保護者教育において、LTADは取り上げられていない。(栄養、成長、成熟、精神的な特徴)
- ■管理者教育において、技術教育の本質が語られていることは少ない(大局観)
- ■スポーツ科学、医学と技術戦術指導現場の統合不足

25

④育成方法論(1)育成世代のコーチング

JBA 👺

④育成方法論=(1)育成世代コーチング 目標

JBA 🎏

- ■育成年代で最適な指導を行いながら勝利を目指す姿勢
- ■発育発達の特徴を知り考慮した上でのコーチング実施
- ■練習を行い、ゲームで試し、その課題解決のために練習を行う 考え方
- ■勝利至上主義に陥らず、選手の将来を見据えながら、成長に最適なコーチング

2"

④育成方法論=(1)育成世代コーチング フィロソフィ

JBA 🛎

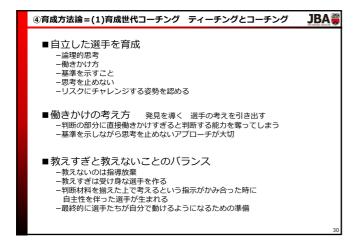
- ■LTAD理論 年代によって指導すべき内容は異なり年代に応じた適切なものがある
- ■今日の結果ではなく、子供が明日どんなプレーをするかを楽しみに指導すること
- ■選手のプレーの質は, 指導者自身の思考・基準によって影響される。今こそ本気でこれまでの価値観を変え、世界基準での指導に転換しよう
- ■指導者しか選手を変えることができない
- ■指導者は選手の未来に触れている
- ■我々は年代に応じて獲得できる技術、戦術、体力を獲得させ、世界で闘えるタフで 逞しい選手を育てる役割がある

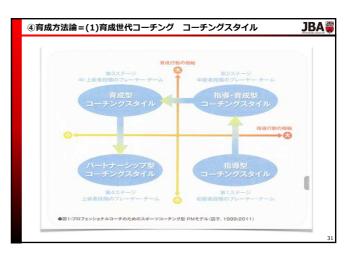
④育成方法論=(1)育成世代コーチング フィロソフィ

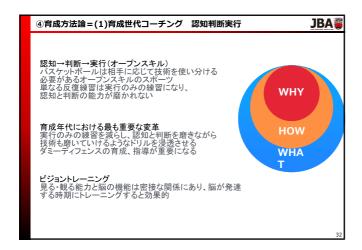
JBA 🎏

- ■育成と勝利を目指すことを両立させる
- -決して矛盾するものではない。
- -自分自身の最高のパフォーマンスを出す事にトライする ことは重要な習慣であり同時に勝利を目指す重要な姿勢
- ■人間教育
- -人間形成
- -子供の人格を健全に発達させる

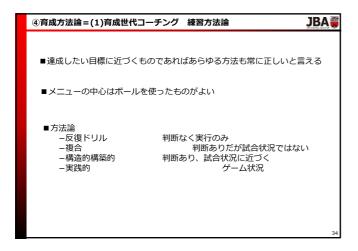
29

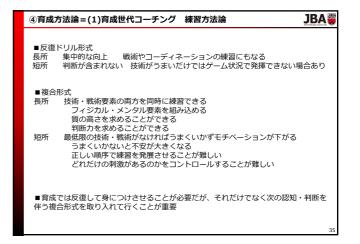












④育成方法論=(1)育成世代コーチング ピーキングコントロール

JBA 🏺

<u>「期分け」</u> 「ピリオダイゼーション」

時期や目的に応じたトレーニング計画立案 バスケットボール界に必要なトレーニング理論

■トレーニングを計画し、指導する

 トレーニングの量と質のコントロール

 超回復
 適切な刺激,適切な回復過程

 特異性
 「筋肉を鍛えるな,動きを鍛える」

■計画の視点

長期的LTAD理論数年中期的1年、6ヶ月、3ヶ月短期的1ヶ月、1週間、1日

④育成方法論=(1)育成世代コーチング 発掘・セレクション

JBA #

- ■将来を見据えた選考
- ■最終予測身長
- ■運動学習能力、運動習得能力と経験年数を加味
- ■運動能力に優れた選手
- ■早期にポジションを決めない オールラウンダーの育成
- ■メンタリティの重視(意志意欲・勝利への意欲等)

37

④育成方法論=(1)育成世代コーチング 戦術指導

JBA 🍔

■個人戦術 1対1の駆け引き

■グループ戦術 2対2、3対3

■チーム戦術 4対4、5対5

育成で重要なのは個人戦術・グループ戦術

④育成方法論=(1)育成世代コーチング 技術指導

JBA

- ■選手が正しい判断を下せるようにするためには、選手がそれぞれの状況を正しく見て,刺激を知覚し,分析することができるように仕向けること
- ■ある場面であるプレーが行われた要因と理由を理解できる選手は、学習能力が高く、 プレーを重ねるごとに判断力が上がっていく
- ■その視野、プレー認識が正しく行われているかを選手に伝え、修正し続けなければならない
- ■知覚、ブレー解釈、ブレー意図、判断、戦術、技術、フィジカル、セットプレーなど -それぞれを分類し分類されたものを個別に考えると本質とかけ離れたものになる
- ■いつ状況を把握するか いつ判断をするか -ボールを受けてから把握するか、判断するか、判断してからボールを受けるか

20

④育成方法論=(1)育成世代コーチング 技術指導

JBA 🖀



シュート技術の体系的組み立て

左右に曲がる原因のないフォーム作り ボールに伝わる速度のコントロール感覚の向上と暗黙知化 シューティングコーチの育成



ペイントアタックスキルの向上

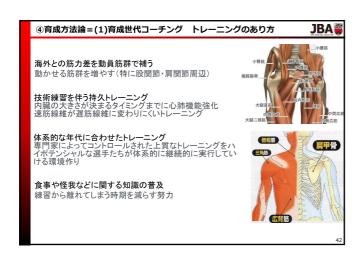
エリア1のペネトレイトスキル カウンタームーブを磨く エリア2のかけひきの向上 エリア3のフィニッシュスキルの向上



ハンドワークや細かいファンダメンタルのこだわり

動勉さをいかした技術の徹底・特にパスの実行速度と精度 技術論を深めるディスカッションの土台作り(分析や定義など) 練習法・ドリルのメソッドの発展

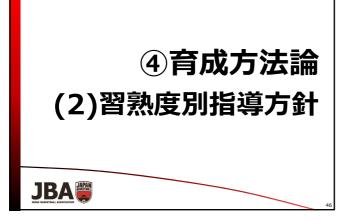
方法	淪=(1)	育成世代	もコーチ	・ング	年代別	指導内	容リスト	
	Pass	Dribble	Shoot	Footwork	Def.Fundamental	Rebounding	OffenseTeam	DeferoeTean
	Otest & bounds page - Zhands	Advenced dribble	Over hand lay up	Gross over step	Defense stance	Box out on ball / Rebound - 2 bands	2mm specing (penetration)	Give & go out defe
	I hand snap case	Speed dribble &	Set shet	On side step	Side movement	Dox out off bel /	Smen specing (penetration)	
	Long pass off critis - Zhands	speed charge Attack step move	Under hand lay up	Jump stop	(step-step) Deny defense	Rebound - 2 hands	2mon spacing (screening and outling)	
	2 hands over head	Creas over shibble	Catch & sheet	Stride stop	Pasitioning Fanil (on		Smen spacing (screening and	
	Baseball pass	Speed cross over	Power lay up	Pivoting	bel0		cutting)	
U-12	Drive & kick	Power dribble	Reverse ley up	Changing of direction				
	Ball protection	Spin move	Step through move	V-Cut				
	- Incommit	Detween the legs	Quil & sheet	Back door out				İ
		Behind the back delible		Week side out				
				Give & go cut				
				Tripple threat				
	Overhead ones pass	Extream grass over dribble	1step ley up	Quick step	Release featwark	Box out on ball / Rebound - I hand	Hard off	Positioning (dony , i deny)
	Long pace off dribble - Thorst	Float & attack	Jump shot (simple satish)	L-Ou	Close cut (foot & hard neek)	Box out off ball / Rebound = 1 hand	Pick & roll	Simple help rotat
	Drive & lock advenced	Drag dribble	Jump shot (off dribble)	Wing drop step			Pick & pop	Week side out defe
U-14	Wing delicery	Seaso - at-a- d-550s	Hesh shet - I lea	Flair est.			Plate & align	
	Touch pass		Power hook shot	Jump penetration			Off ball screen ZenZ (down, cross, back screen & moves of screener)	
			Turn & choot				Flash out	
			Flair & shoot					
			Fade away jump shot	Sealing	Post defence (fronting, 1/4 dany)			Bask door help defe
U-15			Floater	Whool step				Plak & rall defess
0-16				Post up				Off ball screen defe (follow, slide throu
								Back screen defor thursp & receve

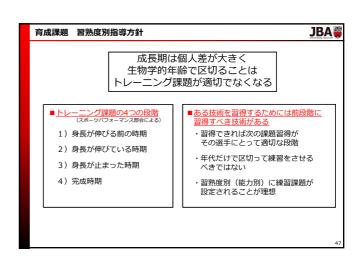


④育成方法論=(1)育成世代コーチング メンタル指導 ■勝ち続けること、勝つことを習慣づける ■勝利から生まれる慢心や優越感を持ちすぎない ■どんな困難な局面でも常に力を出しきり、そして勝利を目指す姿勢 ■選手たちが競争意識を持ち続けられるようなボーダーラインの設定 ■才能に恵まれた子供たちでも負けてばかりいれば努力しても報われないと思ってしまう

④育成方法論=(1)育成世代コーチング 人間教育 ■人材育成 一応援してもらえる選手になるために 一社会で貢献できる人になるために 一社会に元気を与える選手になるために ■主体性・自立 一自ら全力を尽くす姿勢・リーダーシップ ■協調・感謝 一礼儀・挨拶 一規律・チーム精神 一気配り・思いやり

④育成方法論=(1)育成世代コーチング 育成指導者に対する評価
 ■育成指導者に対する評価を向上させる方策を実施
 ■サッカーのブルーペナント(育成指導者表彰制度)に倣う
 ■日本代表選手から表彰すべき指導者の推薦をもらい表彰する
 ■指導者に対して育成指導者の価値を認める情報を常に発信する





1回の練習での時間配分(%)	U-7/U-8	U-9/U-10	U-11/U-12	U-13/U-14	U-15/U-16	U-17/U-18	U-19/U-2
運動能力	30						
マイナーゲーム	30						
ボールを使った簡単な勝作	20	20					
後級のスポーツ活動		25					
技術トレーニング		20	25				
3on3		20		20			
運輸能力/Coordination/Condition			25	20	25	20	20
個人歌衛			1.5	15	15		
ポジション別技術談習				25	25	25	50
ジームファンダメンタル			15		20	30	25
パワートレーニング						1.0	1.5
パスケットボールゲーム	20	15	29	20	15	15	20

トレーニング量と内容	U-7/U-8	U-9/U-10	U-11/U-12	U-13/U-14	U-15/U-16	U-17/U-18	U-19/l
練習回数(1w)	2	3	4	5	6	7	9
アスレティックトレーニング回数(1w)				1	1-2	2-3	2-3
シーズンゲーム数		15-30	20-40	25-45	25-50	25-55	30-6
運動能力トレーニング	•	-	•				
技術・ミニゲーム	-	•	•				
ゲームで使うファンダメンタル		•	•				
バスケットボール基礎技術			•	•			
アスレティックトレーニング				•			
専門性トレーニング				-			
トップレベル連結トレーニング							-

U-7/U-8

- 目的

- 日的」
 複数の運動課題を含む運動能力育成
 ボールゲームへの慣れ
 様々なボールゲームをブレーすることでアイデアと楽しみ方を育成
 ルールを守って他選手とブレーすることを経験

- コーチング
 小さなグループでよく動かす
 子供たちをエキサイトさせてブレーさせる
 簡単な動きの課題でのゲーム
 遠ったボールを使って複数の課題を作る
 簡単なルール
 子供たちに心を開いて聞く

- 割合 運動能力 30% ボールを使った簡単な動作 20% マイナーゲーム 30% バスケットボールゲーム 20%

U-9

- 目的

 ノスケットボールを楽しむ
 動く事を楽しむ
 暴碌技術をブレーしながら学ぶ(ドリブル・パス・シュート)
 様々なボールゲームをブレーすることで楽しみを育成
 様々なスポーツ活動を通じて動く事を挟える
 他選手と一緒にブレーすることを学ぶ(フェアブレー)

- コーチング
 小さなグループでよく動かす
 子供たちをエキサイトさせてブレーさせる 簡単な動きの課題でのゲーム
 違ったボールを使って複数の課題を作る 我慢強く
 常に選手のアイドルになる
- 割合
 複数のスポーツ活動 25%
 ボールを使った課題とゲーム 20%
 技術トレーニング 20%
 3対3 20%
 バスケットボールゲーム 15%

U-10

- 目的

 - |日的|
 バスケットボールを楽しむ
 動く事を楽しむ
 動や事を楽しむ
 基礎運動能カのトレーニング
 基礎技術を学ぶ
 暴碌的個人戦略を学ぶ
 限られたスペースでスペーシングと動きの基礎を学ぶ
- コーチング
 運動学閣能力のゴールデンエイジ
 小さいグループン動かす
 技術課題はゲームトレーニング
 ボールに多く接して判断力の養成を
 異なるボールを使って多くの課題を
 我慢強く
 岡手が使えるように
 前語性の育成と楽しみ

- 割合
 複数のスポーツ活動 20%
 ボールを使った複数の課題とゲーム 20%
 技術トレーニング 20%
 3対3 20%
 バスケットボールゲーム 15%

U-11/U-12

- 目的

 ブレーを楽しみ、前追力を養成

 凝脱技術のトレーニング・違う状況で使えるように
 ディフェンスファンダメンリルを学ぶ

 暴硬速動能力を強調するトレーニング
 バスケットボールゲームの基礎技術
 暴硬的個人戦略
 チームファンダメンタルを学び始める (パスして製

- コーチング
 技術経習を増やし詳細に
 技術経習を増やし詳細に
 技術経習とゲームで同じことを強調しないようにする
 両手を同等に検認
 コンディションとコーディネーションをゲームスタイルで練習する
 コミュケーションをしっかりとる

- コミュニケーションをしっかりとる
 割合
 運動能力・コーディネーション・コンディション 25%
 技術トレーニング 25%
 個人戦術 15%
 チームフアンダンシリル 15%
 バスケットボールゲーム 20%

U-13/U-14

- 目的
 ブレーを楽しみ、創造力の安定
 ゲームライクの状況で技術練習
 アスレティックトレーニングを採用
 ディフェンスファンダメンタルの安定
 ***・※※の安定

- アインエンアンテンテンタルの以上 個人戦術の安定 チームファンダメンタルの導入 簡単なチーム戦術を学ぶ チーム (コート内外) と個人に関する連帯責任態の構築
- コーチング
 熱心さとモチベーションをサポート
 報点より削速性
 ポジション別トレーニングの開始、しかしポジションを一つに固定しない
 選手が批判されることに慣れさせる

- - 「 運動能力・コーディネーション・コンディション 20% 技術トレーニング 25% 個人戦術 15%

 - 小グループでバスケットボールゲーム 20% バスケットボールゲーム 20%

U-15/U-16

- 目的
 ゲームライクな状況で激しいポジション別練習
 アスレディックトレーニング
 ウエイトレーニングの開始
 上級ディフェンス技術
 上級母 出版等
 上級子・ムファンダメンタル
 指縦で乗が布を覚える
 ゲーム理解力の育成 ゲーム理解力の育成 真剣に取り組む姿勢およびやる気と楽しみのサポート
- コーチング
 激しい練習構成の中で激しさをコントロールする
 技術面、戦略面を詳細に、コート内外で教える
 選手全員をしっかり動かしていく
 選手が手上内字世制等も石さどにに慣れる
 学校とスポーツのコーディネート

- 割合 運動能力・コーディネーション・コンディション 25% ポジション別技術練習 25% 個人戦術 15% ~ ハコマンダメンタル 20%

- 1回人 東北州 15% チームファンダメンタル 20% バスケットボールゲーム 15%

U-17/U-18

- - 一つのボジションで全ての要求に対応できるように準備 ボジションに必要なことをマスターする バスケットボールに発化したアスレティックトレーニング 上駅ウエイトトレーニング 上駅ティフエング 全下の個人とチームファンダメンタルの安定 ・ 「大阪をごからなどのできない。」

 - 複雑な戦術の安定 ゲーム理解を深める 個人育成を最優先し、チームの短期的成功は後にする
- - チング
 プロとしての取り組み方を教育
 結果重視
 個人責任
 解律
 激してのエントロール
 パフォーマンスコントロール
 個人に影響を与えるもののチェック(エージェント、個人的問題)

U-19/U-20

- 目的
 ボジションに特化した複雑な練習
 バンクットボールに特化したトップレベルのアスレティックトレーニング、パワートレーニング
 ゲームの事務を定えの今 ゲームの事務を定める
 コートのかて規令といる気をサポートする
 選手のリーダーシップと個性をサポートする
 選手をプロのレベルへ

 - 選手をプレのレット、
 ゴロスポーツのみ指導
 世界的トップレベルの業績技術
 できる限り構造的に、可能な場合に創造的に
 選手の個性を強くサポート
- - 耐容
 運動能力・コーディネーション・コンディション 20%
 ボジション別技術練習 20%
 パワートレーニング 15%
 デームファンダメンタル 25%
 バスケットボールゲーム 20%

4育成方法論 (3)リーグ戦文化



育成年代の特徴

JBA 🍔

成長のピークには個人差がある

早熟型の選手と晩成型の選手の混在環境になる。

早熟型の中にも晩成型の中にも将来トップレベルで活躍できるポテンシャルの選手がいる。特に、大器晩成といわれるような選手達が 埋もれやすい。

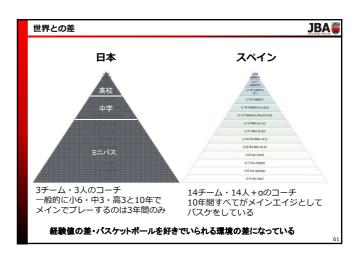
経験のスポーツ

3年間プレーしたら、3年間メインエイジとして戦えた方が選手としての成長は促進される。

拮抗したゲームほど成長の機会が多くなる。大差がつく試合はどちらにとっても得るものが少ない。

育成年代の大会環境は敗者にも経験を

勝者しか次の試合を保証されない環境では、早熟ばかりがプレータ イムを増やしてしまう環境になる。



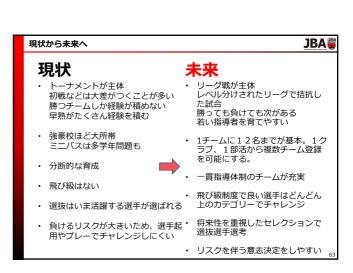
年間を通したリーグ戦 2シーズンに分けて入れ替え戦を行いながらリーグ戦を戦い、 拮抗した公式戦の試合数を確保する。 レベル別のリーグ戦 チーム力が同じくらいのそれぞれのリーグで、「楽しさ」を失わずに、「成長」をうながす。上の年代に飛び級登録も可能にし、常に挑戦の機会を提供する。 個人登録のメリット 協会は個人登録しているすべての選手に、年間20ゲーム程度の公式ゲームを提供する。

リーグ戦文化の目的

リーグ戦を文化にする挑戦

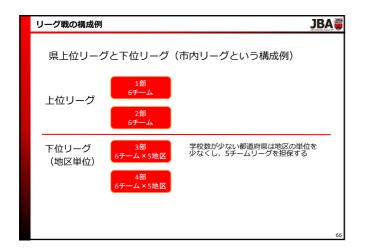
JBA 🌉

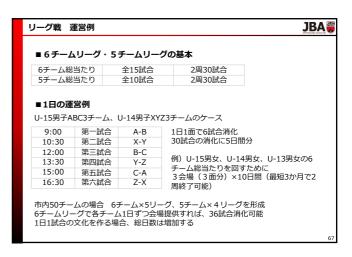
JBA 🖀

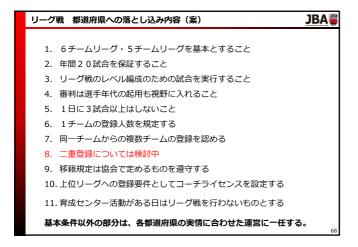


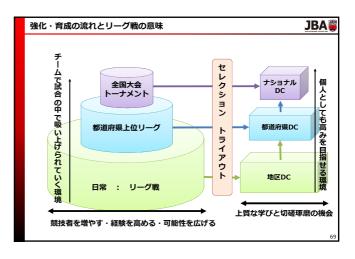
どんなにそれが大変であっても、 いつかやらなければならない改革ならば、 いま、我々の世代で成し遂げよう!

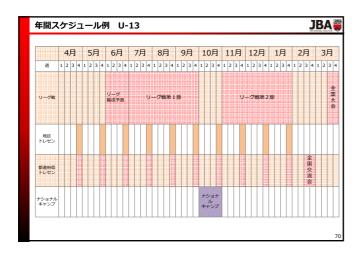


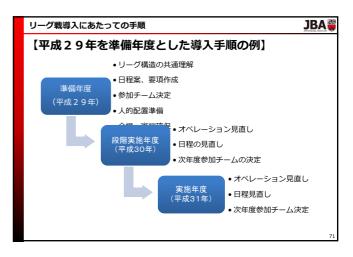








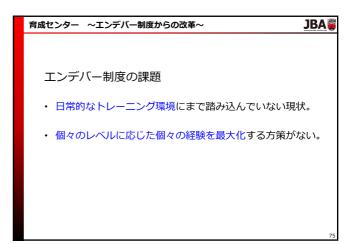


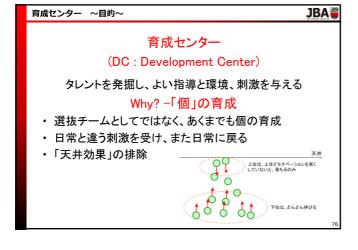


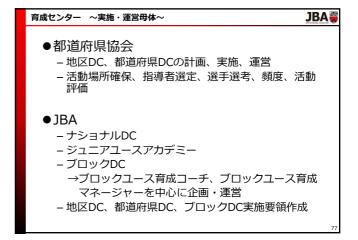




④育成方法論 (4)育成センター Development Center







育成センター ~都道府県への情報伝達~

JBA 3

■ユースディレクターの新設(案)

- 現在の都道府県ユース育成コーチ、マネージャーを 統括
- 都道府県1名
- 育成年代責任者としてU-12、U-15、U-18活動全般
- 都道府県の独自性を考慮したユース育成ビジョンの 作成.
- カテゴリーを超えた長期一貫指導体制の確立
- 育成年代全体における年間リーグの確立
- トレセンと単独チームスケジュールの調整
- 指導者養成事業との連携
- 年に1~2回開催する全国ユースディレクター研修会に参加、JBAの育成方針や育成活動の具体的内容を研修

育成センター ~トレセンの問題点・課題(先行事例:サッカーから)~

JBA a

- 選手選考
 - 選手選考が適切か?
- 指道
 - 適切な指導が行われているか?
 - ・ 暴力、暴言や威圧的態度・高圧的指導
 - ・ 指導者の立ち振る舞い (喫煙、服装、選手の勧誘その他)
 - 効果的な指導ができていない→スタッフの研修、研鑽がない
- 運営
 - 明朗公正におこなわれているか?
 - 法外な参加費・活動費の徴収

育成センター ~認定制度~

JBA 🍔

・ 認定制度の導入

DC活動を効果的に維持していくために「認定制度」を導入・運用(案)

- 地区から県、地域全ての活動における全体把握
- 活動拠点・活動状況・スタッフの技能等を正しく把握し、情報展開、 研鑽活動等を適格に行う
- 選手の安心安全の確保、適切なトレセン活動の管理運営を持続させ、 合わせてスタッフの技能向上を目指す

DC活動(拠点)の把握…DC拠点認定制度 スタッフ(指導者)の把握…DC指導者認定制度

育成センター ~認定制度~

JBA 🎏

認定拠点の基準(案)

- より上位のカテゴリーの育成センター活動へ選手が選考され る仕組みがあること。
- JBA公認指導者ライセンスの保有者が、選手選考に関わり、 かつ直接指導をしていること。
- 拠点における指導者として申請する者が、JBAが定める「ラ イセンス対象基準」に記載されたライセンスを保有しており、 別途定める認定指導者の基準を満たしていること。
- 以下の基準の指導者数を配置していること。
 - U-12 :選手 ○名に対し、指導者 1 名以上
 - U-13/14/ :選手 ○名に対し、指導者 1 名以上
 - U-16/U-17:選手 〇名に対し、指導者 1 名以上
- 「JBA育成センター安全・安心対策について」に従い、環境 整備及び安全対策を実施できる体制を有していること。

育成センター ~認定制度~

JBA a

認定指導者の基準 (案)

- JBA公認指導者資格の保有者。
- 指導歴が○○年以上である者。
- 各都道府県協会か認めた者。
- 都道府県協会が指定した育成センターコーチ研修会を 受講できる者。
- ●将来性のある選手を発掘、育成する観点で選手選考できる者。
- 安全・安心対策の下、適切に指導ができる者。
- 適切な育成センター運営ができる者。
- 所属の都道府県協会と連携を取り、規定・基準を遵守 し実行できる者。
- JBAの方針を理解し伝達できる者。

⑤ロードマップ (アクションプラン)













